

初任者研修及びスーパーティーチャーによる1人1台端末を活用した授業公開



佐賀市立思斉館小学部
スーパーティーチャー
松田 洋子 先生

単元名：並べ方と組み合わせ方
小学6年算数科

ICT活用のポイント

児童は1人1台端末のカメラ機能で自分の考えを書いたノートを撮影し、クラウドに提出する。クラス全員が提出したノートは電子黒板に映し出され、お互いの考え方を比較したり共有したりすることができる。

学習の流れ 全6時間（本時1／6）※ …効果的なICT活用の場面

導入

①問題場面から課題を捉える。

「4人が1人1回ずつ走る」
「走る順序を調べる」時に、落ちや重なりが出てくることがあることに気付く。

②解決の見通しをもつ。
規則的に考えること、1つずつ確認していくこと、図を使うことのよさをつかむ。

【めあて】

『落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。』

展開

③自力で課題を解決する。

1人1台端末

ノートに自分の考えを書き、カメラで撮影し、クラウドへ提出する。

④考えを共有する。

1人1台端末

電子黒板

クラウドへ提出された友達のノートを見て、自分の考えと比べる。発表者は、電子黒板にある自分のノートを使って説明する。

⑤解決の結果について話し合う。

図や表を使うよさを確認した後、樹形図を書き、樹形図で調べることに気付く。

まとめ

⑥本時の学習をまとめる。

【まとめ】

『図や表を使って、順序よく調べると、落ちや重なりがないように調べることができる。』

⑦本時の振り返りを行う。

算数ファイルの振り返りシートに本時の振り返りを書く。



←「SAGA Eコネクト」サイトではたくさんの事例を紹介しています。
<https://www.saga-high-school.jp/e-connect/>

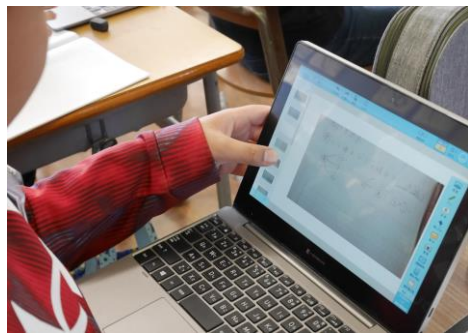
展開③ 【1人1台端末】

ノートに自分の考えを書き、カメラで撮影し、クラウドへ提出する。



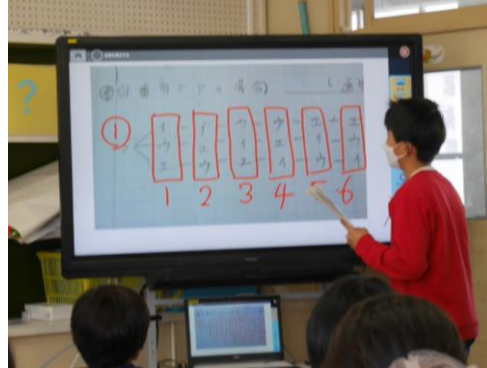
展開④ 【1人1台端末】 【電子黒板】

- ・クラウドへ提出された友達のノートを見て、自分の考えと比べる。
- ・発表者は、電子黒板にある自分のノートを使って説明する。



児童はたくさんの友達の考えを端末で見ることができる。

(「3通りだよ!」「3通りじゃない!」「3通り以上あるよ!」などと白熱した議論が交わされていました。)



電子黒板上のマーカーで印をつけることができるので、自分の考えを分かりやすく説明することができる。



教師は、発表者と違う考えの児童のノートを電子黒板に提示し、落ちや重なりがないかをクラス全体で確かめ、落ちが3つあることを児童に気付かせることができた。

その後、順序良く調べるとよいことを児童から引き出すことができた。

【授業参観者の感想より】

- ・ICT活用をメインで考えるのではなく、活用できる場を探して、より良い授業になるように私もやっていきたいです。
- ・授業後の松田先生による指導事例紹介では、CanvaやPadletについて教えて頂き、自分も使ってみたいと思いました。